

普及だより

# まつら



## 石川勇治さん、利恵さんが 緑白綬有功章を受章されました

緑白綬有功章は大日本農会による表彰で新技術の導入などによる農業経営の発展、地域のリーダーとして産地の形成発展や後継者育成等に貢献のあった方に授与されるものです。



勇治さんは平成16年から農業士として地域農業をけん引し、令和7年1月に開催された「第26回全国農業担い手サミットin佐賀」では唐津・玄海地区の運営委員長を務め、成功に導かれました。また、利恵さんは農業委員として地域計画の策定協議、中山間集落協定の取りまとめに尽力されています。このような功績が今回の受章につながりました。大変おめでとうございます。

また、水稲栽培においては桑原特別栽培生産組合を立ち上げて減農薬・減化学肥料栽培に取り組まれています。担い手の減少で耕作できなくなった水田を引き受け、現在12haを耕作されており、七山に加え浜玉でも水田を借りて作業の平準化や農業機械の有効利用につなげられています。さらに、ドローンや直進アシスト機能を備えた農機を導入し、中山間地域で効率的な大規模経営を確立されています。

令和7年度農事功績表彰として、唐津市七山の石川勇治さん、利恵さんご夫妻が緑白綬有功章を受章されました。令和7年11月12日に東京都内で大日本農会総裁の秋篠宮皇嗣殿下より御表彰を賜りました。  
勇治さんは昭和55年高校卒業後に就農し、露地トマトを雨よけ栽培に転換され、利恵さんとの結婚後はパイプハウスを導入して生産を拡大してこられました。平成15年からは軽量鉄骨ハウスを導入して本格的なトマト施設栽培へと発展し、現在では60a(21棟)の施設で取り組まれています。

本号では、緑白綬有功章及び黄綬褒章の受章者並びに佐賀農業賞の受賞者をご紹介します。佐賀農業賞は、意欲的に技術や経営の改善に取り組み、地域農業の振興に貢献している農業者及び組織・集団を表彰するものです。今回、東松浦管内から各部門において3組が表彰されました。

# No.100

令和8年2月

佐賀県唐津農林事務所  
東松浦農業振興センター  
TEL(0955)73-1121  
FAX(0955)75-0578



<https://www.pref.saga.lg.jp/list03363.html>

※東松浦農業振興センターホームページ



## 加茂達也さんが黄綬褒章を受章

唐津市浜玉町で施設カンキツを中心に営農されている加茂達也さんが黄綬褒章を受章されました。

黄綬褒章は、専門的な技術・技能の研鑽に励んだ方や、業務改善、後進育成に貢献された方など、その分野の向上と公益に資する行動を積み重ねてきた個人に授与されるものです。

加茂さんは、ハウス・露地の両品目で品評会受賞歴を持つなど、産地内で屈指の技術を持たれた生産者です。また、県育成新品種「にじゅうまる」の現地実証農家として技術確立に尽力され、その園地は県のモデル園として多くの生産者の視察研修の場となり、「にじゅうまる」の普及に大きく貢献されました。

加えて、産地における指導的役割を果たされており、ハウスみかん部会長として、ヒートポンプ導入を推進され、暖房経費の削減や環境負荷低減に大きく寄与されました。さらに、JAからつのカンキツ選果場を統合するプロジェクトでは、副委員長として協議を主導され、粘



左：達也さん、右：和枝さん



り強い調整により合意形成を実現されました。その後、JAからつ果樹部会の初代部会長として生産者を束ね産地振興に尽力されました。

今回の受章は、長年の地域農業への貢献が実を結んだものです。



## 佐賀農業賞 先進的農業経営者の部「優秀賞」 橋本暢之・亜衣沙さん

橋本暢之・亜衣沙ご夫妻は、唐津市後川内でミニトマト34a、水稻130aを経営されています。

平成30年に暢之さんがJAからつトマト部会部会長を務めた際に、省力的で味が良い新たな品種「エコスマイル」を自身の圃場で試作し、自ら技術確立にも取り組まれました。それまで長く栽培していた「フルティカ」からの転換を押し進められた結果、今ではJAからつトマト部会の主力品種となっており、単価、収量ともに向上するなど、部の発展にも大きく貢献されています。

亜衣沙さんとともに互いに技術研鑽を行っており、夫婦で協力して栽培に取り組まれています。徹底した適正管理の結果、佐賀県野菜生産改善共進会では、平成29年（41回）、令和6年（48回）と2度の最優秀賞を受賞されました。その技術力は県内でも高く評価されています。また、農業大学の学生研修の受け入れや、JAからつの研修制度の



左：亜衣沙さん、右：暢之さん



トレーナーとして活躍するなど、将来の地域農業を担う人材の育成にも意欲的に取り組まれており、今後ますますの活躍が期待されます。



**佐賀農業賞 若い農業経営者の部「優秀賞」**  
**「特別賞」NHK佐賀放送局長賞**  
**白津宗久・千明さん**



左：宗久さん、右：千明さん

白津宗久・千明ご夫妻は、唐津市浜玉町で施設カンキツを約1.5ha経営されています。

宗久さんは、就農当時からJAからつ果樹青年部に所属し、部会員との情報交換を通じて技術力を高めてこられました。収量、品質を向上させるための改善を積み重ねられた結果、現在では部会トップレベルの技術を有しています。また、「健康な土には健康な樹が育つ」という考えを持ち、基本に忠実に土づくりに重点的に取り組まれています。令和元年度から青年農業士として活躍され、今年度からはJAからつ果樹部会青年部長を務められるなど、地域のリーダーとして活躍されています。また、県外主要カンキツ産地への視察研修も積極的に行われており、高い向上心を持って産地の将来を考えながら活動されています。

今後も明るく、楽しいカンキツ経営のモデルとしての活躍が期待されます。



**佐賀農業賞 地域農業活性化の部「優秀賞」**  
**JAからつアスパラ部会**

JAからつアスパラ部会は、栽培面積913a、総農家数は36戸で構成された部会です。

1戸あたりの平均栽培面積は25aと県内トップクラス（県平均18a）であり、毎年県の共進会では、総販売金額の部で受賞者を輩出しています。部会員の増加や規模拡大が進んでいることから、選果機や結束機の導入、外国人労働者の活用によって、積極的な集出荷体制の整備に取り組まれています。

また、栽培講習会の開催や環境測定装置の活用、先進地視察研修の実施により栽培技術の向上を図り、令和6年の10a当たりの収量は令和2年に比べ11.2%と向上しました。

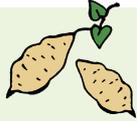
新規就農者の確保・育成の取組では、就農啓発セミナーによる人材確保、トレーナー制やミニトレーニングファームによる育成、新規者講習会での就農後の技術習得支援など、手厚い育成体制を整備されており、毎年新規就農者や栽培者を確保につなげています。

本部会の取組は、他の部会のモデルになっており、今後さらなる発展が期待されます。

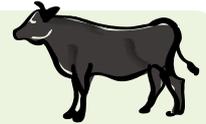


部会長：古藤敬康さん





# 管内トピックス



雇用に関する勉強会(12月18日)



※農業経営に関する専門家の派遣については、佐賀県農業経営サポートセンター(佐賀県農業会議)、または振興センターまでお問い合わせください。

「人が集まりやすく辞めにくい職場づくり」をテーマに、特定社会保険労務士の中島先生をお呼びして、品目問わず、共通課題の雇用に関する勉強会を行いました。経営理念をもとに必要な人材像を明確化することや、雇用定着に向けた育成方法について話がありました。他の経営体の取組についても情報交換を行い、今後の雇用環境の向上について考えるきっかけとなりました。

## 佐賀さいこう経営体 雇用管理勉強会



焼酎原料用カンシヨ新規栽培セミナー  
(10月26日)



安定生産に向けて、自家育苗に取り組む生産者の支援も行っています。

焼酎原料用カンシヨの栽培が今年で3年目となり、約9.5haが作付けされました。フレコン袋に直接収穫できる自走式収穫機2台に加え、つる切り機1台をJAから生産者にリースする体制が整備され、新規の方でも取り組みやすくなりました。10月26日に開催した新規栽培者セミナーでは、実際に収穫している圃場を見学してもらい、新たな栽培者が増える予定となっています。

## 上場地域で 焼酎原料用カンシヨ増加



\*血液分析により栄養状態等を把握し、飼養管理改善につなげる手法

繁殖牛の分娩間隔の短縮に向けて、からつ和牛改良組合青年部において、繁殖牛の代謝プロファイルテスト\*に関する研修会を12月23日に開催しました。研修会では、基礎知識に加え、試験的に実施した5戸の農家の結果を踏まえて、獣医師や飼料会社等の関係機関から、飼養管理の改善方針等が示されました。参加した農家からは、「母牛の栄養が足りていないことが分かった。今後は飼料の量を増やして母牛の健康管理に努めたい」と前向きな声が聞かれました。引き続き、当振興センターは地域の繁殖牛産地の振興に取り組めます。

## からつ和牛改良組合青年部を 対象に研修会を開催しました!

